

<全体分析>

試験時間 2科目で120分

解答形式

記述・論述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

例年大問4題の出題である。

典型的な知識問題が多く出題され、考察問題も昨年と同様の割合で出題された。また、例年通り論述問題が多く、典型的な知識論述問題に加えて、考察を必要とする論述量の多い論述問題も出題された。

与えられた問題内容から考察し、仮説や治療方法を述べる出題がみられた。

試験時間が短い割には論述量が多いので、解答を手早く作成する必要がある。

一昨年まで出題されていた描図問題は、昨年に続き今年も出題されなかった。

その他トピックス

① 特殊な塩基Zは、近年多くのウイルスから見つかるようになったものである。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	記述 論述	遺伝子	生物	DNAの構造と塩基の相補性に関する問題である。問4はAの-Hが-NH ₂ に変化していることから、水素結合が3か所できることに気づくとよい。	標準
2	記述 論述 選択	細胞とタンパク質	生物	神経疾患への関与が疑われるタンパク質に関する実験考察問題である。問6は与えられた実験結果から、疾患が生じるメカニズムの仮説を考える問題である。	標準
3	記述 論述 選択 計算	生殖・遺伝・ 遺伝子	生物 基礎・ 生物	生殖細胞の形成、および遺伝・遺伝子頻度と遺伝性疾患に関する問題である。問3の図7bでは、病気の遺伝子が常染色体上にあり、保因者がいないことから優性であると考え。問6は指定用語の内容から治療法を推定する。	標準
4	記述 論述	行動	生物	昆虫の色覚と学習に関する実験考察問題である。実験の目的などについて問われた。問2は学習がもつ適応的な意義について述べる。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

知識問題は基本的なものが多いので、まず教科書の内容をきちんと学習しておこう。例年さまざまな分野から出題されているので、生物基礎・生物の全分野をまんべんなく学習しておく必要がある。論述問題が多く出題されているので、典型的な知識論述問題については、短時間で的確に論述できるように練習を積んでおこう。知識を必要とする考察問題やデータを解釈する考察問題も出題されるので、問題集などを活用して問題演習を行うとともに、一つひとつの内容を正確に理解するように学習していこう。